

くみよし三大夏まつりく

# みよしの夏を彩る風物詩

みよし市立中部小学校長 下田 久美子



三好池を彩る花火に願いを込めて(三好池まつり)



熱気あふれる 踊りの輪 (三好いいじゃんまつり)

2022年(令和4年)は、みよし三大夏まつりが3年ぶりに開催され、久しぶりに夏の勢いがみよし市に戻ってきました。

みよし市には、市内各地区で開催される秋の祭礼の他に、みよしの夏を彩る「みよし三大夏まつり」があります。8月、「三好池まつり」「三好いいじゃんまつり」「三好大提灯まつり」の順に盛大に開催され、長く市民に愛されて、市全体に活気をもたらします。1990年6月に三好町観光協会が発足してから市内外に広く紹介され、10万人を超える観客が集まる、みよしの顔とも言える観光イベントとなっています。

## 三好池まつり

(1) 三好池の大切さを忘れないために  
みよし市の中央には、愛知用水の調

整池として作られた三好池があります。現在は、市民の憩いの場(散歩、ジョギング、カヌー等)として、みよし市の生活を潤しています。

しかし、三好池ができるまでは、苦労が絶えませんでした。1959年(昭和34年)に曲り池を拡張した三好池が完成し、愛知用水が通水したことにより、待望の木曾の水がみよしの田畑を潤し、町民に喜びと感動を与えました。

1988年(昭和63年)三好池神社を建立し、翌年の8月5日、この木曾の水の恵みに感謝し郷土の産業発展を願って、山型の提灯で飾った提灯船を池に浮かべ、祈願船とともに奉る大御饗調進祭が行われました。これが「三好池まつり」の始まりです。

(2) みよしの地を悠久に潤す願いを  
込めて三好池神社へ

各地区や小中学校から多くの踊り手が集結し、観客共々道路に溢れます。夏の夕方から夜にかけて、オリジナルまつりソング「じゃんだらりん」(ポップス調)や「JUST ROLLIN」(ユーロビート系)に合わせ、盛大な踊りの輪が広がります。この日のために作った衣装、この日のために揃えた動きが観る者を魅了し、三好太鼓保存会が披露する大太鼓がまつりに華を添え、やがて踊り手と観客が一体となって夏の夜が盛り上がります。

毎年の夏休み、市内各地区で小中学生の有志が集い、練習や衣装作り等、地域の方と交流を重ねながら、絆を深めています。近年、他市町や外国から転居してきたたくさんの方々も打ち解け、練習の時から各地域で結束力が感じられる、みよしの夏の象徴的なまつりです。

これらのいいじゃん踊りは、みよし市内の小中学校の運動会や体育大会で披露されることが多くあります。また、みよしの友好都市である北海道土別市との小学生交流会や、アメリカ合衆国コロンバス市との中学生交流会では、いいじゃん踊りを通してお互いの心の交流を深めています。

## 三好大提灯まつり

(1) 手作りの大提灯に込める思い  
みよし市のほぼ中央にある三好稲荷

閨の歴史は古く、三好町誌によると、江戸時代から続くまつりがあると記されています。1927年(昭和2年)、三好稲荷閨が愛知の新10名所(中日新聞社の前身である新愛知新聞社主催)第2位に選出されたことを知った三好下在住の野々山弥蔵氏は、愛知の新名所第2位と自身の還暦を記念して、夏の大祭に、手作りの大提灯を奉納しました。これが、三好大提灯まつりの始まりです。

## (2) これからも伝承したい文化財

祭りの日は、高さ11メートルの大提灯(ギネス記録に載るぐらいの巨大な提灯で有名)が3体飾られ、夜空に浮かび上がるさまは圧巻です。2017年(平成29年)に①「みよし市」の知名度の向上が図られ、市外へ情報発信することができる、②集客力を高めることにより、地域の商工や観光の活性化が図られる、③地域資源を再認識することで、地域の一体感を高めることができる、といった理由から「最大吊り提灯(Largest hanging lantern)」としてギネスに申請し、認定されました。

※現在はギネスの更新をしていないため、「ギネス世界一」と呼称することはできませんが、「世界最大級の大提灯」と呼称するのは問題ありません。

三好大提灯まつりでは、大提灯の他に、「棒の手」が郷土芸能として奉納されます。大提灯まつり実行委員会か



力強い演舞「棒の手」の披露 (三好大提灯まつり)

市・みよし市観光協会で、この日は、愛知用水と三好池の建設にご尽力された、先人への感謝と、水の恵みへの感謝の気持ちを含めて、大きな花火も打ち上げられます。

現在では、7隻の提灯船と、夏の夜空に打ち上げられる色とりどりの花火、水面を照らすいくつもの提灯の輝きで、三好池は幻想的な美しさで包まれます。

## 三好いいじゃんまつり

(1) 誰もが住みよいまちとなるように  
1993年(平成5年)、町制35周年を機に、三好町観光協会主催による「いいじゃん踊り」が誕生しました。当時、急激な都市化と人口増加が進む三好町では、地域の連帯意識の希薄化が懸念され、心豊かな地域社会づくりへの取り組みが始まりました。その一つとして、今までの三好町主催の

ら依頼された三好棒の手保存会の人たちが、二人一組となって舞う、迫力のある「棒の手」。自然に対する感謝や、人々の娯楽として、明治までは各地でたくさん行われていました。毎年、この日のために地域の熟練者やまつりの担い手から手解きを受けながら、棒の手の練習を重ね、緊張感の中にも堂々とした演舞を披露する子どもたちがいます。郷土芸能を子どもたちに伝承していくことで、「ふるさとみよし」の思いを育んでいます。

みよし三大夏まつりを通して、みよし市が市民の合言葉となり、この三大夏まつりと共に、誰もが住みやすい、ずっと住み続けたいなる、みよし市を創っていく担い手となることを願います。

【資料・写真提供】みよし市産業課・広報情報課  
みよし市教育委員会、三好町誌



踊り手と観客が一体となる夏のひととき (三好いいじゃんまつり)

盆踊りを一新し、住民が主体的に参加できるような盛り上がりのあるまつりにしたいと模索したところ、ディスコ調でかつ、道路で踊ることがブームになりかけていたことを受け、新旧住民の垣根をなくし、踊りによる活性化をねらった新しい形を実現させました。1999年(平成11年)、皆が楽しめるイベントとして定着してきたことから「まつりとして位置づけたい」という声が上がると、「いいじゃん踊り」から「いいじゃんまつり」と呼び名が変わりました。

## (2) 踊り手と観客が心一つに

市役所の近くに位置する、三好稲荷閨周辺道路が歩行者専用道路となり、